



清水千賀子さん(54) 釧路市若草町14の3

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□1□

財団法人釧新教育芸術振興基金(平川剛喜理事長)による2001年度(第30回)「釧新郷土芸術賞」の受賞者が決定した。今年も、自己の内面を表現し、道展に連続10回入選している油彩の清水千賀子氏、古代メソポタミアの技法をよみがえらせ、高い芸術性が評価されたガラス彫刻の嶋崎誠氏、釧路の音楽教育の発展に貢献し、札幌「第九」の合唱指揮で高い評価を得た指揮者の小飼久司氏の3人、また特別賞として、くしろ蝦夷太鼓保存会の創設にかかわり、多くの作曲を手掛けた和太鼓の塚原茂夫氏が選ばれた。4氏の業績を紹介する。

油絵は自己表現のひとつ

油彩画を本格的に始めたのは、友人に連れられたのが、

絵画 油彩

て個展を見にいったのがきっかけ。28歳から市内の油彩画教室に通い、当時の絵画サークルアトリ工成画会で、油絵の技法を学んできた。

1980年に釧美展初出品初入選、89年には市内の古びたレンガ倉庫を描いた作品が道展に初入選し、その後連続9回の入選を果たした。92年に釧路美術協会会長賞も受賞している。94年から96

年まで扇谷章二氏に師事して創作活動を展開。2000年7月にはMOOに作品を寄贈した。同年11月の釧路秋季号の表紙

道展に連続10回入選 25年間の集大成、初個展も

景などを細かく描写し、見る人に懐かしさを伝えている。

思い出深い作品

「外来船」

作品は5歳の時に住んでいた錦町周辺のまち並みが多く、港に停泊している漁船の姿や、雪が降り積もる岸壁から眺めた釧路川の風景などが、季節ごとに鮮明に描かれている。50号の小さなものから130号の大作まで、幅広く手掛けてきた。

清水さんは「釧路の中を見て、自分の内面を表現できる作品を描き続けたい。心の景色を描いた『外来船』という作品は、両親が他界する前に褒めてくれた思い出の作品。あの時の感動が忘れられない。今回の受賞を機会に、これからも心を写し出す作品をつくりたい。一層勉強に励みます」と喜びを語った。